

# 2022年環境レポート



## ごあいさつ

当社の事業はもともと畜産業や水産業の副産物であるコラーゲン素材を活かし、食品や健康・美容及び医療の分野へと有益なタンパク質を供給し、より豊かな生活の実現と、人々の健康寿命の延伸に寄与することを目標としています。

当社の主力製品であるゼラチン、コラーゲンペプチドの製造には、多くのエネルギー、水資源を必要とするため、従来より二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減、省エネルギー、水資源削減等に取り組み、環境に配慮した生産活動を行ってきました。

本社・大阪工場は、1999年にISO14001の認証を取得して以来、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを軸に環境負荷低減に努め、2021年度は省エネルギー及びCO<sub>2</sub>排出量抑制で大きく目標を達成することができました。

これからも、社会、地域、そして当社グループで働く全ての人々に配慮した事業活動を通じ、持続的発展が可能な社会の実現に貢献してまいります。

2022年 5月 23日

取締役執行役員 環境管理担当

長岡 令文

## 環境方針

### 安全・環境方針

私たちは、社会、地域そして当社グループで働く全ての人々のために、環境、健康、安全に配慮した事業活動を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

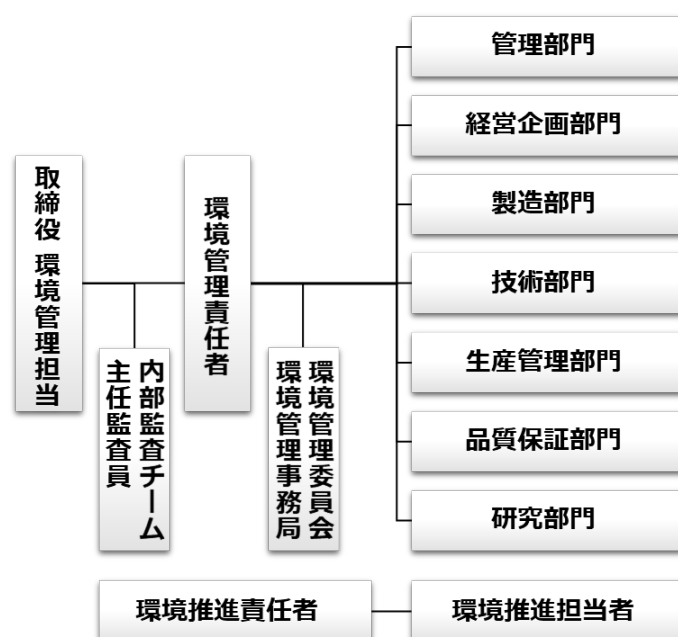
- 関連する諸法令を順守し、環境の保全、健康・安全の確保に取り組みます
- 事業活動が、環境、健康、安全に及ぼす影響を評価し、目標を定めて改善に取り組みます
- 当社グループで働く全ての人々に、安全・環境方針の周知徹底を行い、意識の向上に取り組みます

## 推進体制

本社・大阪工場では、経営層(取締役環境管理担当)、環境管理責任者、各部門長である環境推進責任者と主任監査員及び環境管理事務局から構成される「環境管理委員会」を四半期毎に開催しています。環境目標の進捗管理等、環境マネジメントシステムの運用状況については、同委員会で報告・協議し、方針決定いたします。

毎月各部署で収集される環境パフォーマンスは環境管理事務局で集約管理し、必要に応じて環境管理責任者が対応策を検討いたします。

マネジメントシステム全体の監視は内部監査チームが行っておりますが、構成監査員は適宜新しい要員と交代し、新たな視点と広い視野をもって取り組むよう努めています。



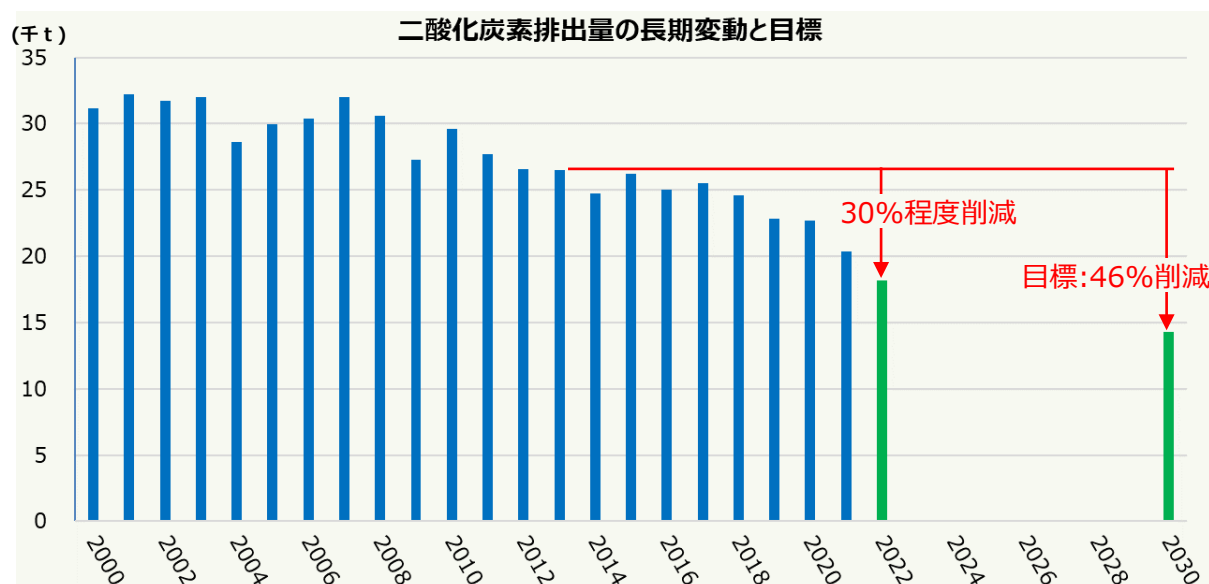
## 温室効果ガスの削減に関する基本方針

当社は、生産段階における二酸化炭素削減に関する基本方針として、2030年度までに2013年度対比46%削減、2050年度までに「カーボンニュートラル実現」を目指して、取り組みを推進します。

## 二酸化炭素排出削減の取り組み

当社は1918年の創業以来、地域社会の一員として環境に配慮した生産活動を行ってきました。各製品の生産にあたっては、多量の水資源・エネルギーを必要とするため、従来から二酸化炭素削減・省エネ・水資源削減等、積極的かつ継続的に取り組み、過去20年間(2001年度比)で約37%の二酸化炭素排出量削減を実現しました。

2022年度は再生可能エネルギー由来の電力への切り替え等により、2013年度対比30%程度の削減を目指します。世界的に地球温暖化等の気候変動に伴う様々な問題が深刻化する中で、あらゆる企業が今後ますます環境に配慮した事業活動への取り組みを求められています。当社はこれからも環境負荷を軽減するための積極的な取り組みを通し、持続的発展が可能な社会の実現に注力してまいります。



### 近年の主な取り組み

- 2012年 高効率型濃縮機導入による省エネ・二酸化炭素削減
- 2013年 高効率型濃縮機の安定稼働
- 2014年 コージェネ排熱回収設備の導入
- 2016年 排水処理施設への負荷低減対策と大規模保全工事を実施
- 2017年 排水処理施設の改良を継続  
冷温水機の第一期更新と運転最適化
- 2018年 新原料対応設備の設置完了  
排水処理施設への負荷低減に伴う省エネ効果確認  
コージェネ発電機更新及び排熱回収設備の移設  
冷温水機の第二期更新
- 2019年 冷温水機の第三期更新(全台更新完了)
- 2020年 ボイラー更新による熱効率アップ  
乾燥機の排熱回収
- 2021年 排水処理の負荷低減対策

## 環境マネジメントシステムの取り組み

本社・大阪工場は、1999年12月にISO14001認証を取得し、それ以降国際規格に基づいた環境マネジメントシステム（EMS）を軸に環境負荷低減に取り組んでいます。

### 1. 本社・大阪工場 ISOの歴史

- 1997年 環境マネジメントシステム(EMS)導入を決定
- 1998年 9月 環境管理委員会発足、EMS運用開始
- 1999年12月 ISO14001：1996 認証取得  
(審査機関：一般財団法人日本品質保証機構)
- 2005年12月 ISO14001：2004へ移行
- 2017年12月 ISO14001：2015へ移行

### 2. 本社・大阪工場 EMS 適用範囲

登録活動事業者:新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場

所在地:大阪府八尾市二俣2-22

登録活動範囲:1.下記製品の製造

- 1)食用、医薬用、写真用ゼラチン
  - 2)化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲン
- 2.ゼラチン、コラーゲンの研究開発



登録証番号：JQA-EM0675

登録事業者：  
新田ゼラチン株式会社  
本社・大阪工場  
大阪府八尾市二俣2-22

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 / JIS Q 14001 :2015

登録日：1999年12月28日  
登録更新日：2020年12月28日

有効期限：2023年12月27日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構  
東京都千代田区柳町五丁目2-5  
理事長 小林 憲明

本証には付属書がありますので、合わせてご覧ください。



20.06 D7501177

## 2021年度 環境活動実績 (2021年4月1日～2022年3月31日)

本社・大阪工場では、年間計画に基づいて環境目標を設定し、環境活動を推進しています。エネルギー原単位削減のため、排熱の再利用とエネルギーを多く使用する機器の省エネタイプへの更新を計画的に進めています。2021年度は排水処理工程の負荷低減対策によりエネルギー効率が向上し原単位は前年度より減少しました。

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量はエネルギー効率向上により、目標を達成しました。廃棄物については、環境負荷の大きい埋立廃棄物の排出を抑制し、排出量目標をクリアしました。廃棄物リサイクル率については、これまで通り100%近い状態を維持できています。水資源については、製品の品質を維持した中で取水量の削減や再利用に取り組んでおり、排水量は前年度より約2.0%削減しましたが、目標としていた排水量を若干上回りました。

紙資源の削減については、業務のペーパーレス化を積極的に推進した結果、前年より減少しました。

その他法令順守、環境教育の推進、工場周辺環境整備等についても適切に対応しています。

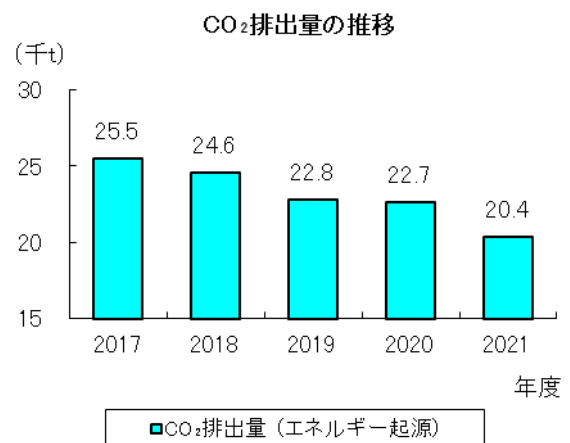
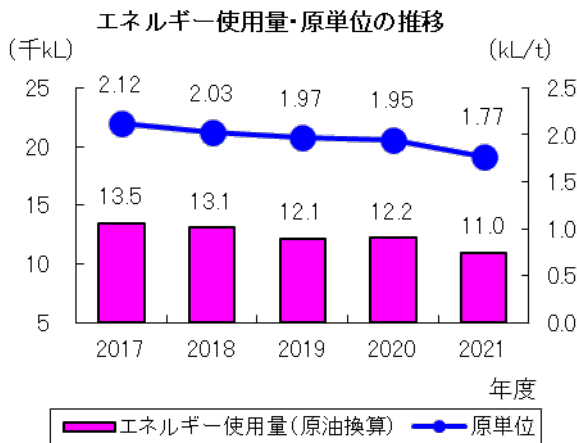
環境目標	環境テーマ・目標値	実績	評価
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	予定通り実施	○
	是正措置の実施	異常なし	○
	環境影響の予測	新規導入・更新設備のアセスメントを2件実施	○
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の削減 (前年度実績から1%削減)	目標達成 (前年度実績から9.2%削減)	○
CO <sub>2</sub> 排出量削減	大阪工場全体のCO <sub>2</sub> 排出量削減 (前年度実績から5%削減)	目標達成 (前年度実績から10.1%削減)	○
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	廃棄物リサイクル率 99.8%	○
水資源の削減	排水の排出量抑制 (751千m <sup>3</sup> 未満 : 前年度実績から2.1%削減)	目標未達 (753千m <sup>3</sup> : 前年度実績から2.0%削減)	△
紙資源の削減	コピー用紙の使用量の削減 (前年度実績未達)	目標達成 (前年度実績から36.8%削減)	○
環境教育の推進	一般教育の推進 (都度)	予定通り実施	○
	教育活動の推進 (2回/年)	予定通り実施	○
	指定業務教育の推進 (都度)	予定通り実施	○
	内部監査員教育の推進 (1回/年)	予定通り実施	○
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施 (2回)	予定通り実施	○
	工場パトロールの実施 (4回)	予定通り実施	○

- : 目標達成
- △ : 前年実績より改善したが、目標未達
- × : 前年実績・目標ともに未達

## 省エネ活動と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減への取り組み

製造部門では、冷温水機、ボイラーやコージェネレーションシステムの更新等により、エネルギー効率を高め、工程の改良に努めています。また業務部門でも室温管理、使用しない間の事務機器電源オフなどの省エネを推進しています。

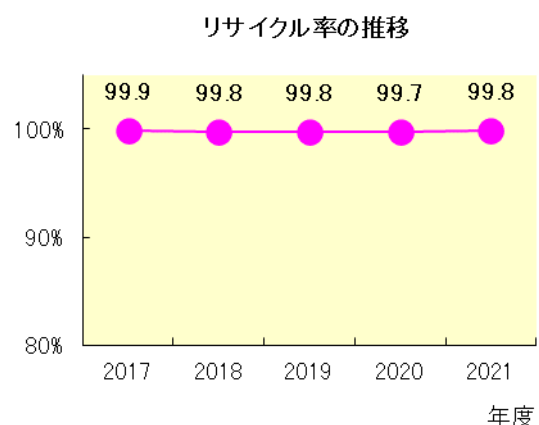
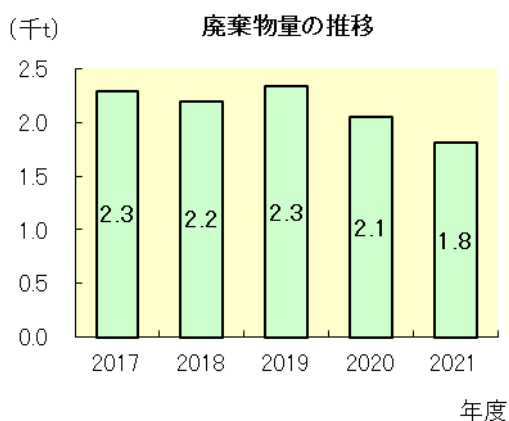
2021年度は、排水処理の負荷低減対策、ボイラー更新後の安定稼働などでエネルギー効率がアップし、エネルギー原単位(製品1tあたりのエネルギー使用量)は前年度より、9.2%減少し、CO<sub>2</sub>排出量(総量)は前年度より10.1%減少しました。



## 廃棄物管理

排水処理では多くのエネルギーを消費しています。エネルギー負荷低減のため処理前の排水から固形物を分離回収できるよう、2016～2017年度に設備改造を行いました。改造前と比較すると回収した固形物により廃棄物量は増加しておりますが、2017年度以降は安定した水準で推移しています。

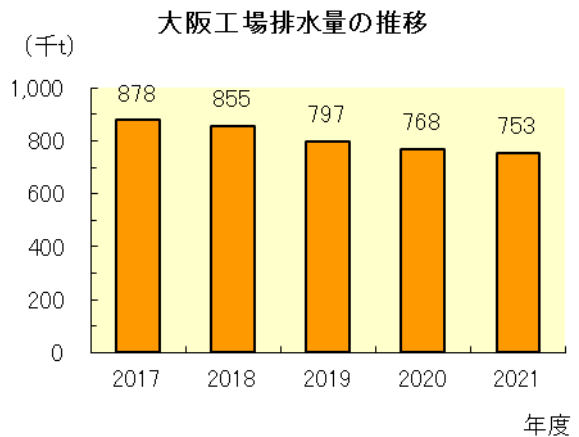
全廃棄物のリサイクル処理率(熱リサイクル含む)は99.8%で、100%に近いレベルを維持できています。



## 省資源活動

### 1. 水資源

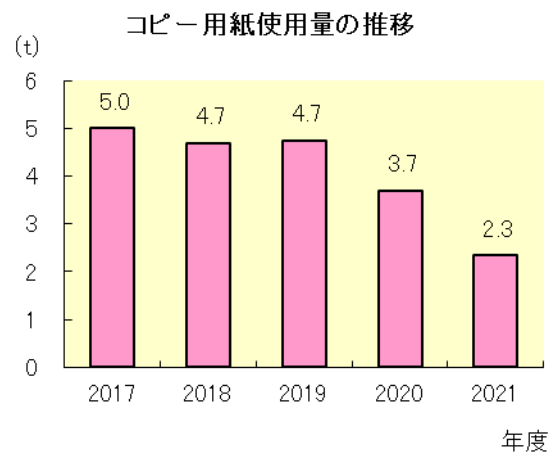
ゼラチンの抽出工程で多くの水資源を使用します。また、品質の維持・向上のために、設備の洗浄作業でも水を多く必要とします。環境負荷低減のため、大阪工場では、作業工程の見直しと水の再利用をすすめ、取水量の削減に取り組んでいます。この取り組みにより、2017年以降は生産量を維持しつつ、排水量は減少しています。



### 2. 紙資源

過去の使用量は、概ね4.7～5.0tで推移していましたが、2020年度より全部署でペーパーレス化を積極的に進めています。

この結果、2021年度のコピー用紙使用量は2019年度比で半減しました。



## 教育活動

本社・大阪工場で働く全ての従業員を対象に、新入社員教育、一般教育、推進担当者教育等を推進し、意識向上に努めています。

### 1. 環境セミナー

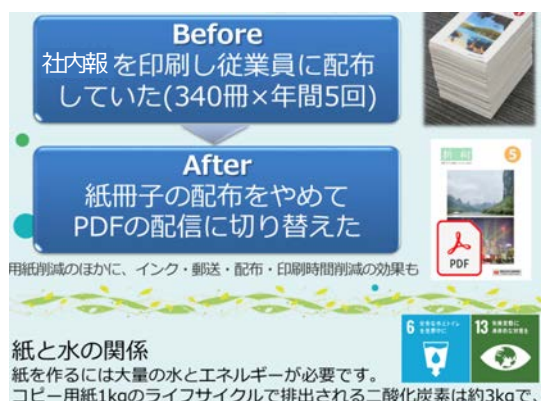
5月～6月には、工場の全従業員を対象に環境一般セミナーを動画配信形式で実施しました。フロン対策の最新動向と対策の重要性について従業員の環境意識向上を図りました。



環境一般セミナー 資料

### 2. 地球温暖化防止に向けた改善提案

今後のさらなる二酸化炭素削減には、従業員すべての理解と取り組みが不可欠です。2021年より、「地球温暖化防止に向けた私の改善提案」を開始し、優秀事例の紹介と顕彰を通じて啓発に努めています。



優秀事例の紹介

## 緊急事態対応

### 1. 消防訓練・防災訓練

2021年11月に防災訓練、2022年3月に消防訓練を行いました。

防災訓練では地震を想定し、避難場所の確認を、消防訓練では避難訓練と自衛消防隊の放水訓練、消火器による消火訓練を行いました。



消防訓練

### 2. 緊急事態訓練

薬品漏洩等の事故・緊急事態を想定した模擬訓練を2021年12月に実施しました。

訓練では塩酸配管からの薬品漏洩を想定し、対応手順と連絡体制確認を行いました。また他部署からも多数の従業員が見学しました。



塩酸漏洩緊急事態訓練



## 企業市民としての活動

### 社会貢献活動

地域の方々との様々な関わりの中で、皆様から信頼される良き企業市民として地域社会との共生に努めています。

#### 1. ブドウ収穫ボランティア活動

大阪府の「大阪農業つなぐセンター」が創設した副業やボランティアなどで農業への参画を希望する企業と、農作業への応援を求めている農業者をマッチングする大阪府のアグリパートナー連携協定制度の「農業体験・ボランティア」分野の初事例として協定書を締結し、8月にブドウの収穫作業を行いました。



ブドウの収穫作業

#### 2. カフェを併設した売店建設

2021年11月に、カフェを併設した当社コーラーゲン商品の売店をグラウンドに設置しました。

このカフェは近隣の皆様の憩いの場としてもご利用いただいています。



カフェを併設した売店

#### 3. 地域清掃・環境パトロール

11月に工場周辺の清掃を実施し、59名の従業員が参加しました。9月と12月には八尾市の清掃キャンペーンにあわせて、延べ132名の従業員が近隣の清掃作業を行いました。このほか、四半期毎に環境パトロールを年4回実施し、周辺の環境美化に努めています。



工場周辺の地域清掃

#### 4. グラウンド一般利用

グラウンドを開放し、年間を通して少年サッカークラブの練習にご利用いただいています。

古くからある染井吉野と新入社員が植えた枝垂桜の花は、毎年春に近隣の皆様に楽しんでいただいています。



グラウンドの桜

## 2022 年度 環境目標

2022年度の本社・大阪工場環境保全活動の目標は、2021年度の実績を基に見直し、具体的な行動展開につながるべく新たな目標を設定して、推進してまいります。

この目標には、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量、エネルギー消費量の大幅な削減、水資源の責任ある利用、無駄な廃棄物の削減などが含まれます。

環境目標	環境テーマ	目標値
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	法順守
	是正措置の実施	実施
	環境影響の予測	アセスメント実施
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の抑制 (原油換算)	1.76kL/ t 以下 (前年度比 -1%)
CO <sub>2</sub> 排出量抑制	大阪工場全体のCO <sub>2</sub> 排出量抑制	18.3千 t 以下 (前年度比 -10%)
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	99% 以上
水資源の削減	排水量原単位の抑制	122m <sup>3</sup> / t 未満 (前年度実績未満)
紙資源の削減	コピー用紙の使用量の削減	前年度実績未満
環境教育の推進	一般教育の実施	都度実施
	教育活動の推進 (教育・セミナーの実施)	3回/年
	指定業務教育の実施	都度実施
	内部監査員教育の実施	1回/年
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施	2回/年
	環境パトロールの実施	4回/年

発行元 : 新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場  
発行責任者 : 環境管理責任者 高橋 摂雄  
発行日 : 2022年 6月 1日  
お問合せ先 : 環境事務局(管理本部 工場管理センター内)  
住所 : 〒581-0024 大阪府八尾市二俣 2 - 2 2  
電話 : 072-948-7190

